

パックス・クリスティ・インターナショナル

日本・北海道 G 8 首脳会議への声明 完全で不可逆的な核兵器廃絶を達成するための力強いリーダーシップを

世界各国で活動する 100 を超える加盟団体を持つ国際カトリック平和運動のパックス・クリスティは、2008 年 7 月 7 - 9 日に北海道で開催される G 8 サミットを前に、この声明を発表する。

G 8 サミットの日本での開催は、サミットの議題に不拡散問題が加えられたことを非常に適切で理にかなったものとした。

広島と長崎への原爆投下という類をみない悲痛な経験をもつ日本は、核兵器の保有、開発と国内への持ち込みを禁止してきた。それは核兵器の惨劇を世界から無くそうと取り組んでいる全ての人々に希望を与えてきた。日本国憲法第 9 条が「国権の発動たる戦争と武力による威嚇又は武力の行使は国際紛争を解決する手段としてはこれを放棄」したこともまた、国際紛争の非暴力的解決に取り組む世界中の人々に希望を与えてきた。このように国家が平和への献身を示した例はほかにほとんど存在しない。G 8 諸国と国際社会は、憲法 9 条を保持していることを称賛し強く支持するべきだ。

パックス・クリスティは、繰り返し地球上から核兵器を廃絶することを要求してきた。国家と非国家主体のいずれも、核兵器を使用、脅迫、保有することは不道德である。私たちは、G 8 の指導者たちが核兵器の完全で不可逆的な廃絶の達成と不拡散条約 (NPT) と不拡散体制の強化のために、力強いリーダーシップを発揮するよう要求する。

パックス・クリスティは、新たに差し迫っている軍拡競争の不吉な兆候が現れつつあることを深く懸念している。飢餓が増大する人類社会も危機に瀕している地球も、このような後退を受け入れる余裕はない。憲法 9 条破棄の試み、何十億ドルもかけて国家の核兵器生産能力を再建するための米核生産施設再編計画、東欧も含めて現在配備が計画されているミサイル防衛システム、米印原子力協定などすべてが、軍縮、特に核軍縮の可能性が徐々に後退していることを世界に示している。

何十年もの間、国際社会は不拡散体制を作る取り組みを続け、核兵器の拡散阻止に貢献してきた。NPT に調印することによって、核保有国は条約第 6 条のもとでの核軍縮の目標にむけて取り組み、非核保有国は核兵器を入手しないことを約束した。未だに保有を宣言していない核保有国も含め、より力を持つ国々が自国の核能力を追求、維持または強化している中で、G 8 諸国はイランと北朝鮮に核開発計画を放棄するよう強制することはできない。

私たちは G 8 諸国の指導者が、積極的に核軍縮分野における多国間協力を活性化させ、政治的議題の中で不拡散と軍縮を優先課題に位置づける特別の責任を負っていることを認識するよう求める。中東に非核兵器地帯を創設することは特に緊急の課題だ。

人類と地球の生存は危機に瀕している。平和、持続可能な人類の発展、全生物の保全は、資本を独占し、危険な状況を永続化させている軍需産業よりも優先されなければならない。人命と全ての生物は神聖であり、核兵器の開発、保持、使用の威嚇と使用は、道義とはかけ離れたものである。人類社会は自らの安全保障追求の道を方向転換することを余儀なくされている。全人類の安全が保障されなければ、誰の安全も保障することはできない。

2008 年 6 月 8 日

パックス・クリスティ・インターナショナル執行委員会